

発達障害情報・支援センターにおける情報データベースの構築

研究分担者：山脇かおり（国立障害者リハビリテーションセンター 企画・情報部
発達障害情報・支援センター）

研究協力者：渡邊文人（同上）
与那城郁子（同上）

研究要旨

発達障害情報・支援センターが運用する2つのウェブサイト（発達障害情報・支援センターのホームページ、発達障害ナビポータル）について、現状における両サイトの利用状況の集計結果を概観し、今後の情報発信の充実および体制強化に向けた事前検討を行った。

令和6年度の1年間におけるユーザーの閲覧状況の傾向としては、ホームページでは各障害の定義や法令、制度・施策、発達障害者支援センター等の支援機関に関する情報を、ナビポータルでは情報検索ツールや研修コンテンツ等に関する情報が多く検索されていた。また、ホームページのユーザーアンケートより、具体的な相談先や支援手法を求めてアクセスしたユーザーの満足度が低く、掲載情報の整理と表示方法の工夫および拡充を要することも窺えた。

令和7年度以降は、本研究班の取り組みにより得られた知見や成果を両サイトに反映できるよう関係各所との調整・連携をはかり、発達障害に関する信頼のおける情報の発信と定期的な情報更新を可能とする体制づくりに向けた検討を進める。

A. 研究目的

発達障害情報・支援センター（以下、「当センター」）では、「発達障害情報支援センターのホームページ」（以下、ホームページ）と、「発達障害ナビポータル※」（以下、ナビポータル）を運用している。その2つのウェブサイトで、発達障害に関する信頼のおける情報を発信し更新していくための体制づくりについて検討することを目的とする。

※ナビポータルについては、国立特別支援教育総合研究所発達障害教育推進センターと共同運用している。

B. 研究方法

今年度は、両サイトの現況を確認して閲覧動向を把握した。

具体的には、令和6年度（令和6年4月1日～令和7年3月31日）の1年間における、各サイトのユーザー数、表示回数、セッション数、及びアクセス数の多いページを、Google

Analytics を用いて集計した。

加えて、ホームページについては、ユーザーアンケートへの記載内容、ナビポータルについては Google Search Console を用いたクエリ（検索キーワード）、クリック数も参照した。

（倫理面への配慮）

ユーザー属性を省いた情報を抽出・集計しており、個人情報を取り上げるような内容とはなっていない。

C. 結果

■ホームページについて

- ・ユーザー数：464,792
- ・表示回数：1,156,347
- ・セッション数：580,425

※注：令和5年7月1日に Google Analytics の規格が UA から GA4 に変更されたため、前年度との比較は行っていない。

アクセス数の多かった上位 10 ページ（トップページは除く）は、下記の通りである。カッコ内の数字は、表示回数である。

1. 発達障害者支援センター一覧（151, 849）
2. 発達障害とは（55, 366）
3. 強度行動障害支援者研修資料（37, 409）
4. ライフステージ別（34, 588）
5. 本人に伝える（34, 436）
6. 各障害の定義（29, 979）
7. 障害者総合支援法（27, 398）
8. 発達障害に気づく（22, 858）
9. 発達障害者支援センターとは（22, 122）
10. 相談窓口（21, 850）

<ユーザーアンケートについて>

・回答数は 21 件で、回答者の立場は当事者 11 件（内 10 名が青年期以上）、当事者の親 5 件、当事者の配偶者 3 件、支援者 2 件であった。

・利用目的は「発達障害について調べるため（8 件）」「利用できる制度を調べるため（5 件）」「相談窓口を探すため（2 件）」「イベント・研修会情報を知るため（1 件）」であった。閲覧ページは「「発達障害を理解する（12 件）」「制度・施策（11 件）」「発達障害に気づく（10 件）」「こんなとき、どうする？（7 件）」「発達障害者支援センターについて（6 件）」の順であった。

・当サイトにより目的が達成されたか（5 段階評価）という問いに対して、「達成されなかった」という当事者からの回答は 2 件あり、「相談先がない」「発達障害の相談機関が少なすぎる」との意見が寄せられた。

・家族からは「当事者にどんな困り事があるのか、どんなサポートが有効か知れた」との意見があった一方、「よく分からない」「具体的な場所が分からない」「配偶者の状態と比較して当てはまる点が少なかった」「参考になる記事が少なかった」「保護者が参加できる内容や応募ができるのか、いまいち分かりにくい」との意見もあった。

・支援者からは「知っている事柄が多く、こうすれば病気の改善がみれるというのがほしい」などの意見が寄せられた。

・今後どのような情報が欲しいか（自由記述）の欄には、「偏食について教えて欲しいです」「実践していく中で疑問点がでてきた場合の情報の窓口になる場所が知りたい」「まだ分からない」「大人の自閉スペクトラム」「発達障害者でも様々な症状で悩み、その方々の転職後の体験談など」「発達障害のどんな事に支援するのか？まだ発達障害と分からない段階で、そこを利用できるのか？」との記載があった（記載した意見は、いずれも原文ママ）。

■ナビポータルについて

- ・ユーザー数：201, 761（前年比 +34. 7%）
- ・表示回数：740, 928（前年比 +128. 3%）
- ・セッション数：298, 550（前年比 +39. 7%）

アクセス数の多かった上位 10 ページ（トップページは除く）は、下記の通りである。カッコ内の数字は、表示回数である。

1. 当事者・家族向け情報検索ツール「ココミテ（KOKOMITE）」（42, 133）
2. 発達障害児者の支援に関する標準的な研修プログラム〔研修動画〕（31, 776）
3. 青年期・成人期（15, 879）
4. 研修コンテンツ集（15, 744）
5. 令和 6 年度第 2 回支援者セミナー 配信ページ（15, 699）
6. 教育福祉連携のための研修コンテンツ〔研修動画〕（14, 188）
7. 学童期・思春期（13, 005）
8. 発達障害に関する地方自治体の取組および関連情報データベース（12, 553）
9. 発達性協調運動症（11, 746）
10. アセスメントツール（M-CHAT）について（11, 364）

<検索キーワードについて>

クリック数の多い順に、下記の通りである。カッコ内はクリック率である。

1. 発達障害ナビポータル：5, 501（87. 6%）
2. 発達障害：3, 025（0. 18%）
3. DCD：1, 604（5. 24%）

4. トウレット症候群： 1,258 (0.46%)
5. 発達性協調運動障害： 873 (2.77%)
6. M-CHAT： 709 (19.9%)
7. システムティックインストラクション
： 541 (57.9%)
8. 発達ナビポータル： 517 (84.5%)
9. 発達障害 大人 相談 無料： 456 (10.2%)
10. 発達障害ナビ： 451 (33.2%)
11. 知覚統合とは： 448 (7.98%)
12. 発達障害 つらい： 396 (15.7%)

D. 考察

ホームページでは、「発達障害者支援センター一覧」や「相談窓口」等の支援機関に関する内容や、「発達障害とは」等の障害特性の定義や説明、気づきや告知に関する記事、関係法規、強度行動障害支援者研修資料等、定義や制度・施策に関する情報に多くアクセスされていた。

ナビポータルでは、当事者・家族向け情報検索ツール「ココみて (KOKOMITE)」や、「発達障害児者の支援に関する標準的な研修プログラム」「教育福祉連携のための研修コンテンツ」等の研修動画、M-CHAT 等のアセスメントツール、ライフステージ別の気づきや支援に関する内容が多く利用されていることがわかった。また、「トウレット症候群」「発達性協調運動症」等、特定の診断・特性もよく閲覧されていた。

両サイトにおけるアクセス数の多かった内容より、具体的な相談先や支援方法・研修に関するニーズは継続的に一定数存在していると考えられた。ユーザーは、目的・ニーズによって両サイトを使い分けていることが窺えた。また、ユーザーアンケートに寄せられた意見からは、具体的な相談先や支援方法を求めてアクセスしたユーザーが、掲載情報に辿り着けない、内容に不足があるなど、ニーズには十分に応じられていないことも窺えた。今後は、ユーザーが目的とする情報にスムーズに辿り着けるよう、両サイトの掲載情報の整理と表示方法の工夫が必要だと考えられる。

一方、これまでに両サイトで取り扱っていなかった種類の情報（例：ナショナルデータベースより抽出される統計データの利活用に関する事項等）もあり、引き続き検討を行う必要がある。

E. 結論

令和 6 年度の 1 年間における両サイトの利用状況等を概観した。ホームページでは各障害の定義や法令、制度・施策、発達障害者支援センター等の支援機関に関する情報、ナビポータルでは情報検索ツールや研修コンテンツ、アセスメントツール等に関する情報がよく活用されており、ユーザーは目的・ニーズによって両サイトを使い分けている可能性があると考えられた。

ユーザーアンケートの結果より、具体的な相談先や支援手法を求めてアクセスしたユーザーの満足度が低く、ナビポータルへの誘導等と合わせて更なる工夫と取り組みを要することも窺えた。

次年度以降、本研究班の取り組みにより得られた知見や成果を反映できるよう、関係各所と調整・連携をはかりながら、発達障害に関する信頼のおける情報の発信と定期的な情報更新を可能とする体制づくりに向けた検討を進めたい。

F. 健康危険情報

本研究に関する健康危険情報はない。

G. 研究発表

1. 論文発表
なし
2. 学会発表
なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

<参考文献>

- 1) 国立障害者リハビリテーションセンター
発達障害情報・支援センターホームページ
<https://www.rehab.go.jp/ddis/>
- 2) 発達障害ナビポータル
<https://hattatsu.go.jp/>